

令和7年度 縄瀬小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立縄瀬小学校		校長名	宮元 俊行	
学級数	7学級	児童生徒数	33名	職員数	10名
教育目標	自ら学び、豊かな心とたくましく生き抜く力をもち、ふるさとを愛する児童の育成				

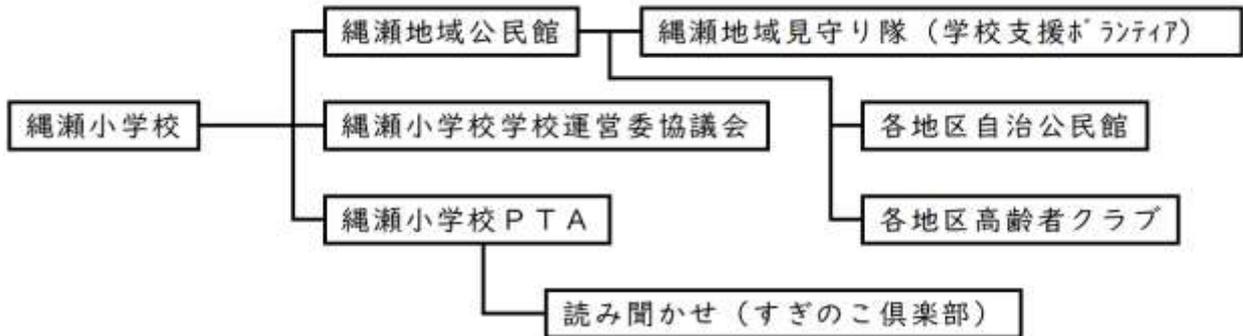
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員 (計8名)・事務局 (計2名)

学校運営協議会委員	No.	所属名 (役職)	氏名	備考
		1	縄瀬地域公民館館長	古川 辰昭
	2	都城市議会議員	迫間 輝昭	
	3	縄瀬保育園園長	富永 俊江	
	4	民生委員・児童委員	古川 照子	
	5	民生委員・児童委員	大田 育子	
	6	共和地区環境保全対策協議会会長	中島 学	
	7	PTA 会長	北野 倫美	
	8	PTA 副会長	石黒 麻衣子	

事務局	役職	氏名
	校長	宮元 俊行
	教頭	桑迫 明

(2) 組織編制



3 活動報告

月 日	主な活動及び内容
5月14日	・第1回学校運営協議会(学校経営説明、自己紹介、委嘱状交付、授業参観、学校運営協議会の説明、その他・連絡事項)
6月16日	・学校運営協議会拡大委員会(熟議、民生委員・児童委員、主任児童委員、教職員、保護者等との情報交換会)
8月4日	・第2回学校運営協議会(高崎地区合同小中一貫教育共通実践の取組について、令和6年度の各校実践報告、グループ協議)
9月9日	・第3回学校運営協議会(オープンスクールの授業参観、学校運営の近況等、学校評価、その他・連絡事項)
12月10日	・第4回学校運営協議会(学校運営の近況報告等、学校評価、その他・連絡事項)
2月24日	・第5回学校運営協議会(学校運営の近況報告等、学校評価、次年度に向けて、その他・連絡事項)

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会を含む）

6月：「どんな縄瀬っ子に育ってほしいと思いますか。」

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

○ ミシンを使ったトートバッグ作り

学校運営協議会委員の方から紹介していただいた地域の方に、ミシンを使ったトートバッグ作りの支援を、5・6年生の家庭科の時間にさせていただいた。授業には4回来校していただいた。延べ17名に学習支援をしていただいた。

教科書だけでは分かりにくいことを実際に学ぶことができ、また、地域の方も子どもたちと楽しく交流することができたことで、互いにとって有意義な時間となった。



【ミシンの学習支援】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 学校運営協議会拡大委員会

地域・保護者・学校の三者が同じ方向を向き、目の前の子どもたちと向き合っていくため、昨年度から「学校運営協議会拡大委員会」を開催している。

三者それぞれが「自分たちにできることは何か」という視点で熟議を行っており、今年度は、「あいさつ」に重点を置いて、子どもたちの健全育成のために話し合いを深めることができた。



【熟議での話し合い】

(3) 地域貢献活動

○ 館山(校区内の山)及び学校周辺(縄瀬保育園前)のごみ拾い

5・6年生が10月と11月に、館山(校区内の山)及び学校周辺(縄瀬保育園前)のごみ拾いを行った。「ごみがたくさん落ちている」という子どもたちの気付きから、この活動が始まった。

館山では、不法投棄されたと思われる粗大ごみ(テレビや冷蔵庫、看板等)から小さなごみまで、多くのごみが見られ、分別するとごみ袋5つ分となった。

学校周辺では、多くの落ち葉や枯れ草を集めることができ、地域のために少しでも貢献できたことに、子どもたちは達成感を感じている様子であった。

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 今年度は、入学式、運動会、オープンスクール、卒業式に参加していただき、学校の教育活動や子どもたちの様子を多様な視点から理解していただくことができた。
- 学校運営協議会を通して、地域の人材や資源を教育活動に生かす取組が進み、子どもたちが実体験を通して学ぶ機会が広がった。
- 誰かが対応してくれるのを待つのではなく、一人一人が「当事者」としての意識を高め、主体的に協議や熟議を行っていく必要がある。

7 次年度の方向性

- 家庭・地域・学校がよりいっそう連携を深めながら、一人一人が当事者としての意識をもって、「自分たちにできることは何か」という視点で協議や熟議を行い、子どもたちの健全な成長につなげていく必要がある。